

労働安全衛生マネジメントシステム ISO 45001を読む



トップマネジメントがリーダーシップを発揮し、 労働安全衛生マネジメントシステムを牽引

規格のねらい

ISO 45001のねらいは、労働安全衛生リスクを管理し、組織が労働安全衛生マネジメントシステム(以下OHSMS)を計画、運用することで、組織の労働安全衛生パフォーマンスを向上させるための枠組みを提供することです。

ISO 45001の前身であるOHSAS 18001が1999年に発行されて以来20年近い年月が経過していますが、組織にとっての労働安全衛生の重要性はまったく変わり

ません。国際規格として開発が進んでいるISO 45001では、特にトップマネジメントがリーダーシップを発揮し、企業の労働安全衛生文化を醸成していくことの重要性が示されています。

ISO 45001の注目ポイント、メリット

ISO 45001の注目すべきポイントには、トップマネジメントのコミットメントを強化することを通じて組織内のOHSMSの責任の所在を明確化する「リーダーシップ」があります。さらに、組織の内外の状況を把握し、自社にとっての労働安全衛生リスクを特定し、経営計画や事業運営に取り込み、戦略的なOHSMSを計画・運用することも挙げられます。

ISO 45001では、労働安全衛生リスクに対して、労働安全衛生方針に基づいて管理するとともに、OHSMSにかかわる「リスク及び機会」をとらえて、優先的に対応するための計画を立ててPDCAを回す、ということが要求事項として明示されています。また、組織の事業戦略とOHSMSの活動を一体化し、組織が意図したOHSMSの成果を効果的に達成できるように、さまざまな意図が反映されています。

最終国際規格案ISO/FDIS 45001に基づいて、組織がISO 45001に取り組む際に考慮すべきポイントを示します。

■ ISO 45001の4つのポイント

①適切な適用範囲の決定

➡働く人とその他の利害関係者のニーズと実際の活動を考慮しつつ、適切な適用範囲の決定へ

②リーダーシップの強化

➡高いレベルの戦略的視点でOHSMSの実効性を上げていくため、トップマネジメントのリーダーシップと責任を明確化

③労働安全衛生パフォーマンスの向上

➡実効性のある活動と結果を伴った労働安全衛生パフォーマンスの向上を目指す規格へ

④内外コミュニケーションの重視

➡行政機関を含む利害関係者のニーズや期待を重視した、双方向コミュニケーションの管理を強化

1. 適切な適用範囲の決定

ISO 45001の箇条4(組織の状況)では、OHSMSの適用範囲を決定するために、OHSMSの意図した成果の達成に関連する組織の内外の課題や、働く人及びその他の利害関係者のニーズと労働に関連する計画又は活動を考慮するよう求めています。また、決定された適用範囲は、労働安全衛生パフォーマンスに影響を与え得る活動、製品、サービスを含んでいなければならないとされています。

このように適用範囲を決めることで、組織は意図したOHSMSの成果を達成するために、より有効なOHSMSの運用が可能となり、事業目標の達成にもつながることが期待できます。

2. リーダーシップの強化

ISO 45001では、OHSMSを運用するにあたり、トップマネジメントのリーダーシップが最も重要な成功要因であると位置づけており、事業活動とOHSMSを一体化させるために、積極的に牽引していくことが求められています。

箇条5(リーダーシップ及び働く人の参加)では、トップマネジメントがリーダーシップ及びコミットメントを実証するため、以下の事項を要求しています。

- a) 安全で健康的な職場と活動の提供に対する全体的な責任及び説明責任
- b) 組織の戦略的方向性と両立した労働安全衛生方針、労働安全衛生目標の設定
- c) OHSMSを事業プロセスへ統合させること
- d) OHSMSに必要な資源を利用可能にする

ること

- e) OHSMS及び要求事項への適合の重要性の伝達
- f) 意図した成果の達成
- g) OHSMSの有効性に寄与するよう人々を指揮・支援
- h) 継続的改善の推進
- i) 各階層の管理層の役割を支援
- j) 労働安全衛生文化の形成・主導・推進
- k) 働く人が危険源やリスクを通報する場合には、報復から働く人を擁護すること
- l) 働く人の協議及び参加のプロセスを確立、実施
- m) 安全衛生に関する委員会の設置及び委員会が機能することを支援

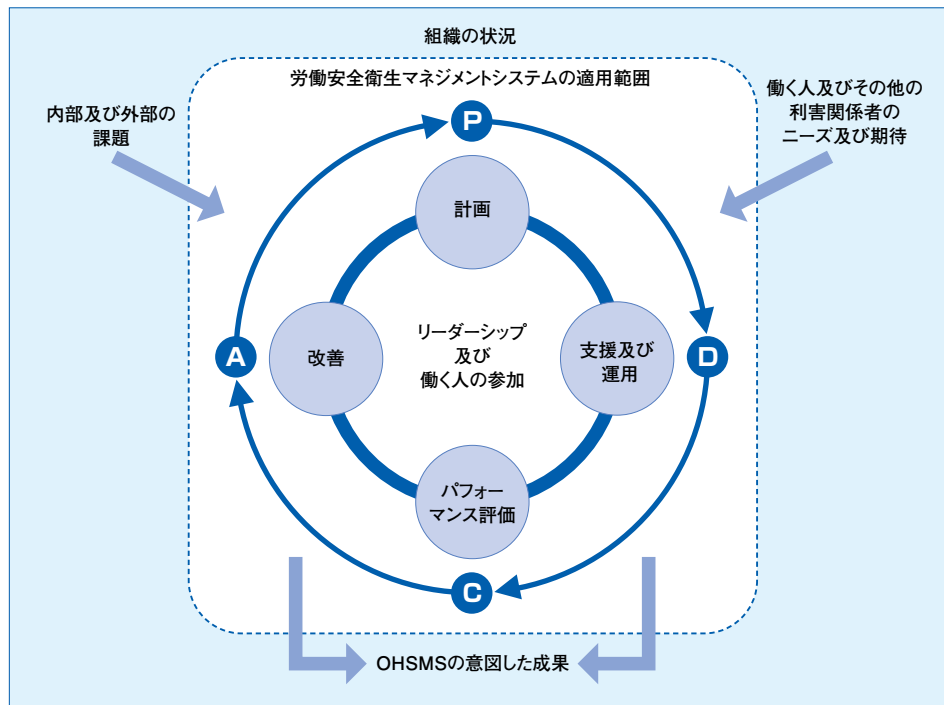
このようにトップマネジメントの責任を明確にすることで、組織が意図したOHSMSの成果の達成に向けて、パフォーマンスの向上と高いレベルの戦略的な視点でOHSMSの実効性を上げていく活動が期待できます。

3. 労働安全衛生パフォーマンスの向上

ISO 45001は、実効性のある活動や結果を伴った、労働安全衛生パフォーマンスの向上を重視する、という方向性が明確化されています。

具体的には、箇条10.3(継続的改善)で、労働安全衛生パフォーマンスの向上が規格の意図として示され、箇条6.2.1(労働安全衛生目標)ならびに箇条6.2.2(労働安全衛生目標を達成するための計画策定)では、指標を設定し、計画段階で目標に対する結

■ PDCAとISO 45001の枠組みとの関係



果の評価方法を決定することが求められています。さらに箇条8.1(運用の計画及び管理)では、プロセスに関する運用基準の設定が求められ、箇条9.1.1(一般)で労働安全衛生パフォーマンスをモニタリング、測定、分析、評価することで、労働安全衛生パフォーマンス、及びOHSMSの有効性を判断することが要求されています。

また、労働安全衛生パフォーマンスに関する情報を内外に伝えることや、OHSMSの適切性、妥当性、有効性に関する結論をマネジメントレビューのアウトプットとすることも要求されており、こうした一連の活動に対してPDCAサイクルを効果的に回すことで、労働安全衛生パフォーマンスの向上につなげることが意図されています。

4. 内外コミュニケーションの重視

近年、企業に対して働く人を大切にする経営や働きやすい職場づくりを行うことへの期待が、ますます高まってきています。さらに、行政機関を含めた利害関係者に対する組織の信頼性や透明性に対する説明責任への期待が強くなっていることから、ISO 45001では、コミュニケーションに対する要求事項が強化されています。

箇条7.4(コミュニケーション)では、コミュニケーションプロセスの計画に際して、法的要求事項を考慮に入れること、さらに、伝達される情報には信頼性があることを確実にすることを要求しています。

コミュニケーションに関する要求事項は、箇条5.2(労働安全衛生方針)、箇条6.2.1(労働安全衛生目標)など、ISO 45001規格全般にわたって反映されており、信頼性の高いOHSMSを展開するというのがこの規格の意図です。

ISO 45001規格の概要とJQAの審査の視点

ISO 45001では、ISOマネジメントシステム規格の共通要素が採用されました。共通要素が採用されたことによって、

- ・ ISO 9001やISO 14001と合わせて使いやすくなる
- ・ マネジメントシステム要求事項の事業プロセスへの統合が図られる
- ・ パフォーマンスや有効性に対する要求が強化されることとなります。

また、OHSAS 18001の「手順」という用

語はなくなり、それに代わって「プロセス」が要求されていることから、ISO 45001の審査では、ビジネス全体の視点からプロセスアプローチ的な審査により、有効性やパフォーマンスが向上しているかどうかを確認することとなります。

JQAでは、従来から組織のパフォーマンスやアウトプットからさかのぼった審査を実施することによって、システムの有効性を主眼とした審査を提供してきました。今回の規格開発によって、本業と労働安全衛生活動の一体化に対する要求が強調されたことで、ISO 45001の審査に対しても、OHSAS 18001の手順ベースからプロセスベースの審査を強化し、本業や職場（現場、現実、現物）での検証をさらに重視することとなります。

また、ISO 45001では共通要素で要求されている概念として「リスク及び機会」が取り入れられました。例えば、従来の労働安全衛生リスクに加え、パフォーマンスを向上するための労働安全衛生機会、及びマネジメントシステムを運用することに対するリスク、並びにマネジメントシステムを改善する機会を評価することが求められています。例えば、移転や職場のレイアウト変更に伴って作業環境を改善し、労働安全衛生パフォーマンス向上につなげることや、マネジメントシステム運営事務局メンバーの退職に伴いあらためて組織の強化を図るなどの取り組みです。

JQAではこうしたリスク及び機会に対しても、現場での審査を通じて、組織が気付いていない「強み」に着眼し、組織力アップや労働安全衛生パフォーマンス向上、OHSMSの有効性向上につなげていきたいと考えています。

序文

ISO 45001の背景とねらい

ISO 45001の序文にはISO 45001の背景やねらい、成功のための要因など、この規格を用いるうえで考慮すべき基本事項が記述されています。

まず、組織が、働く人の労働安全衛生に対する責任を負うこと、その責任には身体の健康及びメンタルヘルスを推進し保護することが含まれると明記されています。このため、組織が安全で健康的な職場を提供できるようにし、負傷、疾病を防止し、労働安全衛生パフォーマンスを継続的に改善できるようにすることを、ISO 45001の目的としています。

序文の0.3（成功のための要因）では、OHSMSの成功はトップマネジメントにかかっていることが強調されており、自らリーダーシップを発揮してOHSMSを牽引し、組織の全ての階層及び部門からの参加を図り、効果的な予防保護処置をとることで危険源を除去し、負傷、疾病を防止することや、労働安全衛生パフォーマンスを向上させることが示されています。

箇条1. 適用範囲

ISO 45001の目的

箇条1（適用範囲）には、ISO 45001によるOHSMSの意図する成果として、組織の労働安全衛生方針のもと、労働安全衛生パフォーマンスを継続的に改善し、法的要求事項及びその他の要求事項を満たし、労働安全衛生目標を達成することが含まれると明示されています。組織は、このOHSMSが意図する成果をベースに、組織として何を目指すのか、組織が意図したOHSMSの成果を明確にすることが必要となります。

そして、組織が意図したOHSMSの成果を達成するために、組織の内外の課題と働く人及びその他の利害関係者のニーズと労働に関する計画又は活動を考慮して

■ ISO/FDIS 45001:2017の構成 (黒字は共通要素の要求事項、赤字はISO 45001の固有要求事項)

<p>序文</p> <p>1 適用範囲</p> <p>2 引用規格</p> <p>3 用語及び定義</p> <p>4 組織の状況</p> <p>4.1 組織及びその状況の理解</p> <p>4.2 働く人及びその他の利害関係者のニーズ及び期待の理解</p> <p>4.3 労働安全衛生マネジメントシステムの適用範囲の決定</p> <p>4.4 労働安全衛生マネジメントシステム</p> <p>5 リーダーシップ及び働く人の参加</p> <p>5.1 リーダーシップ及びコミットメント</p> <p>5.2 労働安全衛生方針</p> <p>5.3 組織の役割、責任及び権限</p> <p>5.4 働く人の協議及び参加</p> <p>6 計画</p> <p>6.1 リスク及び機会への取組み</p> <p>6.1.1 一般</p> <p>6.1.2 危険源の特定並びにリスク及び機会の評価</p> <p>6.1.2.1 危険源の特定</p> <p>6.1.2.2 労働安全衛生リスク及び労働安全衛生マネジメントシステムに対するその他のリスクの評価</p>	<p>6.1.2.3 労働安全衛生機会及び労働安全衛生マネジメントシステムに対するその他の機会の評価</p> <p>6.1.3 法的要求事項及びその他の要求事項の決定</p> <p>6.1.4 取組みの計画策定</p> <p>6.2 労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画策定</p> <p>6.2.1 労働安全衛生目標</p> <p>6.2.2 労働安全衛生目標を達成するための計画策定</p> <p>7 支援</p> <p>7.1 資源</p> <p>7.2 力量</p> <p>7.3 認識</p> <p>7.4 コミュニケーション</p> <p>7.4.1 一般</p> <p>7.4.2 内部コミュニケーション</p> <p>7.4.3 外部コミュニケーション</p> <p>7.5 文書化した情報</p> <p>7.5.1 一般</p> <p>7.5.2 作成及び更新</p> <p>7.5.3 文書化した情報の管理</p> <p>8 運用</p> <p>8.1 運用の計画及び管理</p>	<p>8.1.1 一般</p> <p>8.1.2 危険源の除去及び労働安全衛生リスクの低減</p> <p>8.1.3 変更の管理</p> <p>8.1.4 調達</p> <p>8.1.4.1 一般</p> <p>8.1.4.2 請負者</p> <p>8.1.4.3 外部委託</p> <p>8.2 緊急事態への準備及び対応</p> <p>9 パフォーマンス評価</p> <p>9.1 モニタリング、測定、分析及びパフォーマンス評価</p> <p>9.1.1 一般</p> <p>9.1.2 順守評価</p> <p>9.2 内部監査</p> <p>9.2.1 一般</p> <p>9.2.2 内部監査プログラム</p> <p>9.3 マネジメントレビュー</p> <p>10 改善</p> <p>10.1 一般</p> <p>10.2 インシデント、不適合及び是正処置</p> <p>10.3 継続的改善</p>
---	--	---

適切な適用範囲を決定し、労働安全衛生に関連する「リスク及び機会」を特定後、それらに優先的に対応するための計画を立ててPDCAサイクルを回す、ということがOHSMSの全体の流れとなります。

簡条2. 引用規格

共通要素に含まれる簡条です。ISO 45001では引用規格がないことが示されています。

簡条3. 用語及び定義

全ての人が対象、“worker”は「働く人」

ISO 45001では、規格の簡条に従って用語を定義しています。その中では、ISO 45001がトップマネジメントから管理職、非管理職まで組織の管理下で働く全ての階層、種類の人を対象とするため、「働く人」という用語を用いています。また、一般的なリスクと機会に加えて「労働安全衛生リスク」と「労働安全衛生機会」が定義されています。一般的なリスクと機会は、「マネジメントシステムに対するその他のリスクとその他の機会」と定義されています。

簡条4. 組織の状況
意図した成果を達成するための内外の課題を決定

簡条4(組織の状況)は、経営の方向性を決定していくうえで、組織の状況を理解することを要求事項として定めた項目です。

簡条4.1(組織及びその状況の理解)は、組織の目的に関連した「意図した成果」に影響する外部・内部の課題を決定することを要求しています。

簡条4.2(働く人及びその他の利害関係者のニーズ及び期待の理解)は、OHSMSに関連する利害関係者として、まず働く人があることを明確にして、利害関係者のニーズと期待を把握し、その中から要求事項となるものを決定することを要求しています。これらを考慮して簡条4.3(労働安全衛生マネジメントシステムの適用範囲の決定)でOHSMSの範囲を定めることにより、組織が意図したOHSMSの成果を効果的に達成することにつながります。

◎**審査の視点とチェックポイント**

OHSMSを確立、実施、維持する際には、組織の状況についての知識が考慮されていることを確認します。組織の状況についての知識は、簡条4.1(組織及びその状況の理解)、簡条4.2(働く人及びその他の利害

関係者のニーズ及び期待の理解)で決定した組織の内外の課題、働く人及びその他の利害関係者のニーズ及び期待です。これらのアウトプットにより、OHSMSの適用範囲の設定から、労働安全衛生方針の策定、危険源の特定、要求事項やリスク及び機会を配慮し、労働安全衛生目標を決定する一連の流れを確認します。

簡条5. リーダーシップ トップマネジメントに対する要求を強化

簡条5.1(リーダーシップ及びコミットメント)は、トップマネジメントのリーダーシップがOHSMSの運用上最も重要な成功要因であると位置づけ、「意図した成果」を効果的に達成するためには、トップマネジメントが自ら主導することを要求しています。特に、以下のような項目に関して、トップマネジメントが自ら実証することを求めています。

- 安全で健康的な職場と活動の提供に対する全体的な責任及び説明責任
- OHSMSに必要な資源を利用可能にすること
- OHSMS及び要求事項への適合の重要性の伝達
- OHSMSの有効性に寄与するよう人々を指揮・支援
- 各階層の管理層の役割を支援
- 労働安全衛生文化の形成・主導・推進
- 働く人が危険源やリスクを通報する場合に、報復から働く人を擁護すること
- 働く人の協議及び参加のプロセスを確立、実施

簡条5.2(労働安全衛生方針)では、トップマネジメントが、組織の目的、規模及び状況、労働安全衛生リスク及び機会の性質に対して労働安全衛生方針を確立することを要求しています。さらに、従来の継続的改善と法的要求事項及びその他の要求事項の順守のコミットメントに加え、安全で健康的

な労働条件の提供、労働安全衛生リスクの低減、働く人の協議及び参加に対するコミットメントを強化しています。

簡条5.3(組織の役割、責任及び権限)では、OHSAS 18001の「管理責任者」という用語は削除されましたが、トップマネジメントの責任において同等の役割責任を割り当てることを要求しており、その役割を与えられた者に対してはOHSMSのパフォーマンスに関する状況を報告するための知識や力量が求められます。

簡条5.4(働く人の協議及び参加)では、OHSMSパフォーマンスの向上には働く人の関わりが欠かせないことから、働く人の協議及び参加のためのプロセスを要求しています。特に、非管理職との協議と参加に重点を置くとして、詳細な事項が挙げられています。

◎審査の視点とチェックポイント

簡条5(リーダーシップ)に示されるトップマネジメントへの要求事項に対して、トップインタビューやマネジメントレビューの記録等から、トップマネジメントのコミットメントが規格要求事項に基づき、適切に行われているか確認します。また、OHSMSに対するトップマネジメントの考えが組織の内外にどのように伝わっているか、OHSMSの活動にどのように反映、展開されているかについて検証します。

簡条6. 計画 2つのリスクと2つの機会などに対する計画を策定

ISO 45001では、共通要素に従って「リスク及び機会」が導入されました。簡条6(計画)では、危険源を継続的に先取りして特定し労働安全衛生リスクを評価すること、OHSMSに対するその他のリスクを決定し評価すること、労働安全衛生パフォーマンスを向上させる機会及びOHSMSを改善するその他の機会を評価すること、それらに加え

<現場における留意事項>
簡条5.2(労働安全衛生方針)

労働安全衛生方針の内容が現場に浸透しているかを確認するため、要員に対するインタビューを実施します。現場に対するトップダウンのコミュニケーションの仕組みが機能しているかが重要です。また、OHSMSの有効性に対する自らの貢献を各要員が認識しているかについても重要であると考えます。

<現場における留意事項>

簡条6.2(労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画策定)

現場で展開されている労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画が、どのように労働安全衛生パフォーマンスを改善しているかについて意識してください。それにより計画の有効性をチェックすることにつながります。

<現場における留意事項>

簡条7.2(力量)

例えば、労働安全衛生パフォーマンスに影響を与え得る人が必要な力量を身につけていないことは、OHSMS上、好ましいことではありません。また、働く人が、自分のまわりの危険源を知らないことも、好ましいことではありません。必要な力量を身につけ、維持するための処置が必要です。

簡条7.3(認識)

マネジメントシステムの有効性を高めるために、自らの業務を通じて貢献するだけでなく、危険な状況から逃れることができるという認識も重要です。

簡条7.4(コミュニケーション)

行政対応、緊急事態発生時の外部コミュニケーションの重要性です。広い視点から整理していくことが必要です。

て法的要求事項及びその他の要求事項を決定したうえで、緊急事態への対応を含めてこれらに対する対応を計画することを求めています。

簡条6.1.4(取組みの計画策定)では、OHSMSの意図した成果を達成するための取り組みとして、管理策の優先順位及びOHSMSからのアウトプットを考慮に入れることが求められています。また、ベストプラクティス、技術並びに財務上、運用上、事業上の要求事項を考慮することが求められています。

この計画をもとに、簡条6.2(労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画策定)で関連部門や階層において、実行可能な戦術的計画に展開するとともに、簡条7(支援)で働く人への力量を付与し、簡条8(運用)で運用を管理し、簡条9.1(モニタリング、測定、分析及びパフォーマンス評価)でモニタリング、測定、又は他の事業プロセスで実施することが求められています。

◎審査の視点とチェックポイント

審査では、組織が取り組む必要があると判断した「リスク及び機会」をどのような方法(プロセス)で行うのか、その仕組みと、決定された「リスク及び機会」を確認します。決定されたリスク及び機会については、簡条6.1.4(取組みの計画策定)でどのように取り扱われているかを確認します。さらに、法的要求事項の取り組み、緊急事態への準備対応についても確認します。また、簡条6.2(労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画策定)では、労働安全衛生目標が適切に確立され、計画が策定されていることを確認します。

簡条7. 支援

力量の対象や内外のコミュニケーションが強化

簡条7(支援)は、OHSMSを確立、実施、維持し、かつ継続的に改善するために組織

を支えていくための必要となる資源や力量、コミュニケーション、文書化した情報を管理することを求めており、OHSMSが意図した目的を効果的に達成できるようにサポートする、という意味で「支援」としています。

簡条7.1(資源)は、OHSMSに必要な資源を決定し、計画的に配分することが意図されています。資源の妥当性に関しては、簡条9.3(マネジメントレビュー)の考慮事項の一つであり、それらの妥当性が評価され、適切にマネジメントレビューへ情報提供されていることが必要となります。

簡条7.2(力量)では、労働安全衛生パフォーマンスに影響を与える人に必要な力量、働く人が危険源を特定する能力を含めた力量を備えていることを確実にすることが求められています。また、簡条7.3(認識)では、働く人が危険な状態から逃れることができるということを認識してもらうことが求められています。

OHSMSを効果的に推進し、外部からの意見等に対して積極的に取り組むために、組織の内外のコミュニケーションの仕組みを持つことは極めて重要であるとの観点から、簡条7.4(コミュニケーション)では、内部及び外部コミュニケーションの双方を強調した、透明かつ適切、信頼性のあるコミュニケーション戦略の展開、法的要求事項及びその他要求事項順守のためのコミュニケーションが意図されています。

簡条7.5(文書化した情報)では、従来の簡条4.4.4(文書類)、簡条4.4.5(文書管理)、簡条4.5.4(記録の管理)で示されていた文書や記録が「文書化した情報」という用語に一元化され、IT化の進展に伴い、紙以外の媒体による情報管理の必要性を反映したものとなっています。

◎審査の視点とチェックポイント

OHSMSの有効性を維持し、労働安全衛生パフォーマンスを向上させるために、組織によって決定、配分された資源や力量、内外のコミュニケーションがどのように寄与

しているかについて確認します。また、コミュニケーションに関する要求事項は、簡条5.2(労働安全衛生方針)、簡条6.2.1(労働安全衛生目標)、簡条8.1(運用の計画及び管理)など、ISO 45001規格全般にわたっており、コミュニケーションに関連する要求事項のつながりについても審査します。

簡条8. 運用 手順からプロセスへ

簡条8(運用)では、OHSMSに関するプロセスの確立が包括的に要求されています。ここで示されるプロセスには、OHSMSの要求事項を満たすためのプロセス並びに、(簡条5.4)働く人の協議及び参加のためのプロセス、(簡条6.1)リスク及び機会へ取り組むプロセス、(簡条7.4)コミュニケーションプロセス、(簡条8.1.2)労働安全衛生リスクを低減するプロセス、(簡条8.1.3)変更を管理するプロセス、(簡条8.1.4)調達を管理するプロセス、(簡条8.2)緊急事態へ対応するプロセス、(簡条9.1.1)モニタリング、測定、分析及びパフォーマンス評価のためのプロセス、(簡条9.1.2)順守評価のプロセス、(簡条10.2)インシデント、不適合及び是正処置を決定・管理するプロセスなどがあります。また、プロセスを外委託した場合には、OHSMSの中でどのように管理するかを明確にする必要があります。

簡条8.2(緊急事態への準備及び対応)では、簡条6.1.2.1(危険源の特定)で特定された緊急事態に対して、どのように対応するかの要求事項が示されています。緊急事態への準備及び対応に際しても、利害関係者への情報提供が示されており、コミュニケーションが強化されています。

◎審査の視点とチェックポイント

OHSMSの手順という用語に代わってプロセスが要求されていることから、ビジネス全体の視点からプロセスアプローチ的な検証により、OHSMSの運用に関する有効性

や、パフォーマンスが向上しているかどうかを審査することとなります。組織が特定したOHSMSに必要なプロセスに対して、インプットは何か、アウトプットは何かを確認し、プロセスアプローチ的な審査をします。

こうしたプロセスアプローチ的な審査では、組織の事業活動上のプロセスとOHSMSとの統合の度合いという観点で、本業との結びつきを確認することが重要なポイントとなります。

複数のプロセスの相互関係を意識して、審査を計画し、実施しますので、各プロセスを個別に評価するのではなく、各プロセスの流れと、それに関連する要求事項への展開と相互関係も考慮のうえ、システムとしての有効性を評価することとなります。

簡条9. パフォーマンス評価 OHSMSの有効性を評価し、労働安全衛生パフォーマンスの向上につなげる

簡条9.1(モニタリング、測定、分析及びパフォーマンス評価)は、組織が意図したOHSMSの成果が達成されることを確実にするために必要とするモニタリング、測定の対象を決定し、その結果に応じて組織のOHSMSや労働安全衛生パフォーマンスを継続的に改善するための処置につなげることを意図しています。ここではモニタリング、測定した対象を分析し、労働安全衛生パフォーマンスを評価する基準や適切な指標を用いて評価することが要求されており、パフォーマンス志向が強化されているものです。

簡条9.1.2(順守評価)では、法的要求事項及びその他の要求事項を満たしていることを評価するために必要なプロセスが求められており、ここでもプロセス志向が明確化されています。

簡条9.2(内部監査)では、要求事項への適合に加え、OHSMSが有効に実施され維持することを確認することが求められています。

<現場における留意事項>

簡条8.1(運用の計画及び管理)

手順に着目した審査から、プロセスが確立し、実施し、管理し、かつ維持されていることを検証する審査に変わります。検証を通じてプロセスを運用管理している過程を評価することとなります。

簡条8.2(緊急事態への準備及び対応)

緊急事態も、運用管理と同様に、プロセスを確立し、実施し、維持されていることを検証することとなります。また、ISO 45001では、働く人への教育訓練に加え、組織の対応能力を定期的にテスト及び訓練することが求められています。

<現場における留意事項>

簡条9.2(内部監査)

内部監査は、いわば人間ドックと同じですので、ありのままの現状を認識することが重要です。それにより組織のウィークポイントが明らかになり、改善点が明確になります。

<現場における留意事項>

箇条10.2(インシデント,不適合及び是正処置)

是正処置の前に、修正処置を行うことが明確に要求されたので、現場での早急な対応が求められます。是正処置を行う際には、再発防止を考慮して、例えば現場で行われている「なぜなぜ分析」などもマネジメントシステムの中に取り込むことが重要です。対策を実施する場合には、新しいまたは変化した危険源がないか、リスクアセスメントをすることに留意してください。

箇条9.3(マネジメントレビュー)では、これまでにとった処置の状況、組織内外の課題の変化、労働安全衛生パフォーマンス、資源の妥当性や利害関係者とのコミュニケーションなどをレビューすることが強調されています。

マネジメントレビューからのアウトプットについても、OHSMSの有効性についての結論や、継続的改善の機会に関する決定等を含めることが具体的に示されています。こうした一連のPDCAサイクルを効果的に回すことで、組織が意図したOHSMSの成果の達成に向けた取り組みが確実なものとなります。

◎審査の視点とチェックポイント

パフォーマンス評価に関しては、計画段階で結果の評価方法が計画されていることや、適切な指標を含む労働安全衛生目標が設定され、モニタリング、測定の結果から労働安全衛生パフォーマンスがどのように評価され、OHSMSの有効性がどのように結論付けられているか、について確認します。マネジメントレビューでは、トップマネジメントの関与が強く行われているかについてや、トップマネジメントの指示に対する組織の対応、さらに事業プロセスとの統合の観点から、マネジメントレビューのアウトプットが組織の中長期計画等へ反映されているか、などを確認します。

箇条10.改善

OHSMSの意図した成果を達成するために必要な取り組みを実施

箇条10(改善)は、組織が意図したOHSMSの成果や労働安全衛生方針、労働安全衛生目標を達成するために組織が計画した取り組みを実施することを要求しています。

また、箇条10.2(インシデント,不適合及び是正処置)では、タイトルに「予防処置」とい

う用語がありません。これは、「リスク及び機会」を考慮してOHSMSのPDCAを回すことでシステム運営自体が予防的なツールとして機能する、との考えに基づいています。

◎審査の視点とチェックポイント

箇条10.1(一般)に示される「改善の機会」を決定するために、箇条9.1(モニタリング,測定,分析及びパフォーマンス評価)、箇条9.2(内部監査)及び箇条9.3(マネジメントレビュー)がどのように実施されたかを確認します。

また、PDCAを回すことで、システム全体で予防的なツールとして有効に機能しているかどうかを審査します。つまり、箇条4.1(組織及びその状況の理解)、箇条4.2(働く人及びその他の利害関係者のニーズ及び期待の理解)で導き出された内外の課題や利害関係者の要求からリスク及び機会が決定され、それらに対して継続して取り組み、レビューして改善することで、リスクに対する予防処置として有効に機能しているか、について確認します。

附属書A(参考)

この規格の利用の手引

附属書Aは、組織がISO 45001に取り組むための手引を、規格に沿って記述していません。記載された説明は、ISO 45001の要求事項の誤った解釈を防ぐことを意図したものです。

この記事は、2018年2月末現在の情報に基づいています。

■ ISO/FDIS 45001とOHSAS 18001:2007の比較表

ISO/FDIS 45001		OHSAS 18001:2007	
箇条番号	箇条のタイトル	箇条番号	箇条のタイトル
1	適用範囲	1	適用範囲
2	引用規格	2	参考出版物
3	用語及び定義	3	用語及び定義
4	組織の状況(標題のみ)	—	
4.1	組織及びその状況の理解	—	
4.2	働く人及びその他の利害関係者のニーズ及び期待の理解	—	
4.3	労働安全衛生マネジメントシステムの適用範囲の決定	4.1	一般要求事項
4.4	労働安全衛生マネジメントシステム		
5	リーダーシップ及び働く人の参加(標題のみ)	—	
5.1	リーダーシップ及びコミットメント	4.4.1	資源、役割、実行責任、説明責任及び権限
5.2	労働安全衛生方針	4.2	OH&S方針
5.3	組織の役割、責任及び権限	4.4.1	資源、役割、実行責任、説明責任及び権限
5.4	働く人の協議及び参加	4.4.3.2	参加及び協議
6	計画(標題のみ)		
6.1	リスク及び機会への取組み(標題のみ)	—	
6.1.1	一般	—	
6.1.2	危険源の特定並びにリスク及び機会の評価(標題のみ)	—	
6.1.2.1	危険源の特定		
6.1.2.2	労働安全衛生リスク及び労働安全衛生マネジメントシステムに対するその他のリスクの評価	4.3.1	危険源の特定、リスクアセスメント及び管理策の決定
6.1.2.3	労働安全衛生機会及び労働安全衛生マネジメントシステムに対するその他の機会の評価	—	
6.1.3	法的要求事項及びその他の要求事項の決定	4.3.2	法的及びその他の要求事項
6.1.4	取組みの計画策定	—	
6.2	労働安全衛生目標及びそれを達成するための計画策定(標題のみ)	—	
6.2.1	労働安全衛生目標		
6.2.2	労働安全衛生目標を達成するための計画策定	4.3.3	目標及び実施計画
7	支援(標題のみ)	—	
7.1	資源	4.4.1	資源、役割、実行責任、説明責任及び権限

ISO/FDIS 45001		OHSAS 18001:2007	
箇条番号	箇条のタイトル	箇条番号	箇条のタイトル
7.2	力量		
7.3	認識	4.4.2	力量、教育訓練及び自覚
7.4	コミュニケーション(標題のみ)	—	
7.4.1	一般		
7.4.2	内部コミュニケーション	4.4.3.1	コミュニケーション
7.4.3	外部コミュニケーション		
7.5	文書化した情報(標題のみ)	—	
7.5.1	一般	4.4.4	文書類
7.5.2	作成及び更新	4.4.5	文書管理
7.5.3	文書化した情報の管理	4.5.4	記録の管理
8	運用(標題のみ)	—	
8.1	運用の計画及び管理(標題のみ)	—	
8.1.1	一般	4.4.6	運用管理
8.1.2	危険源の除去及び労働安全衛生リスクの低減	4.3.1	危険源の特定、リスクアセスメント及び管理策の決定
8.1.3	変更の管理	—	
8.1.4	調達(標題のみ)	—	
8.1.4.1	一般	—	
8.1.4.2	請負者	—	
8.1.4.3	外部委託	—	
8.2	緊急事態への準備及び対応	4.4.7	緊急事態への準備及び対応
9	パフォーマンス評価(標題のみ)	—	
9.1	モニタリング、測定、分析及びパフォーマンス評価(標題のみ)	—	
9.1.1	一般	4.5.1	パフォーマンスの測定及び監視
9.1.2	順守評価	4.5.2	順守評価
9.2	内部監査(標題のみ)	—	
9.2.1	一般	4.5.5	内部監査
9.2.2	内部監査プログラム		
9.3	マネジメントレビュー	4.6	マネジメントレビュー
10	改善(標題のみ)	—	
10.1	一般	—	
10.2	インシデント、不適合及び是正処置	4.5.3.1 4.5.3.2	発生事象の調査 不適合並びに是正処置及び予防処置
10.3	継続的改善	—	